

A J A

入 学 考 査 問 題

国 語

聖 学 院 中 学 校

座席番号

考査番号

なまえ

◎問題用紙 七枚

◎解答用紙 一枚

一 次の各問に答えなさい。

問一 次の①～⑩の漢字の読みを答えなさい。

- ① 校庭で点呼をとる。
- ② 人間としての尊厳を保つ。
- ③ 友人の安否を気づかう。
- ④ 名画を模写する。
- ⑤ 少しの間、拝借します。
- ⑥ この会には著名人が多く集まる。
- ⑦ 境内は子どもの遊び場だった。
- ⑧ ハキハキした口調で話す。
- ⑨ これも試練の一つだ。
- ⑩ 雑穀の入ったご飯を食べる。

問二 次の①～⑩のカタカナを漢字にしなさい。

- ① 市民の意見をハンエイさせる。
- ② もつとカンタンな方法もある。
- ③ 道路のカクチョウ計画を立てる。
- ④ 火災ケイホウが鳴っていた。
- ⑤ コウソウビルの立ち並ぶ街。
- ⑥ 法律をセンモンに研究する。
- ⑦ 私のフタンを軽くしてください。
- ⑧ 熱心にハタラク青年がいる。
- ⑨ 上司の命令にオウじる。
- ⑩ 他人とオリ合いをつける。

② 次の文章を読み、後の問に答えなさい。()、や。なども一字とします)

病院から貰った診断書には、こう書いてあった。

『左膝前十字靭帯及び側副靭帯断裂』

足を動かすゴムみたいな組織が切れたってことだ。

サッカー選手がよくやる奴なので、僕はそれがどういう怪我なのかちゃんと知っていた。選手生命を終わらせるものだということも、もちろんわかっていた。手術をして、ものすごく辛いリハビリをすれば、一年くらいでそこそこ動くようになるらしい。ただ高校でサッカーをやるのは、もう無理だった。リハビリが終わるころには卒業している。

僕はサッカーを諦めた。

辛かったけど、しょうがない。

いつだったか、テレビでやっていた時代劇で、織田信長役のオッサンが、

「是非もなし！」

と叫んでいた。

明智光秀に襲われたときのことだ。天下を手中におさめる寸前で殺されようとしてたのに、そう言ったのだ。

是非もなし。

僕流に訳すると、

①「ごちやごちや言ってもしかたない」
ってことだ。

僕の足もまあ、そういうことだった。悔しかったし、さすがにしばらくはいろんなことを恨んだけれど、だからといって足が元通りになるわけじゃない。信長さんみたいに天下やら命やらを諦めるよりはずっとマシだった。

現実を、僕は受け入れた。

左の靴を履くとき、手を長く伸ばさなきゃいけないこと。よたよた歩いているから、小さな子供にも抜かれてしまうこと。

雨が降る前夜に、左膝が痛み始めること。永遠に続くように思えるリハビリのこと。

そういうすべてを、僕は呑み込むことにした。

むしろ、なかなか呑み込めなかったのは、周囲のほうだった。母さんは事故のことを今も引きずっている。僕の足がいかにしてしまったのは自分のせいだと思ってるんだ。たまに変な宗教にはまって、わけのわからないお札を渡してきたりする。

僕の膝がうまく曲がらなくなってしまったのと同じように、②母さんの心はうまく動かなくなってしまったらしい。それでも僕の膝はいつか治る。スポーツは無理にしても、普通に曲げて歩くことはできるようになる。母さんの心は、そのころちやんと動くようになっていくんだろうか。

退部届を出したとき、顧問の先生は泣きそうな目で見つめてきた。

「わかった」

先生はそう言って退部届を受け取ったけれど、全然わかっていなかった。練習中はいつも鬼のように怒鳴っているその声が、少し震えていた。

仲間だったサッカー部員たちも似たようなもので、ある者は僕を避けたし、ある者は必要以上に優しくなった。

これは誰にも言っていないことだけど、というか言えないことだけど、僕はそういうのがうざかった。頑張れよなんて言われると、本気でへこんだ。足がうまく動かないことよりも、リハビリの辛さよりも、人の感情のほうがかきつかったくらいだ。

ところが、だ。

たったひとりだけ、まったく態度の変わらない人間がいた。それまでと同じように話しかけてきて、なんの含みもない笑みを浮かべる奴が。

それが北嶋だった。

「あのさ、足痛かった？」

あいつは退部届を出したばかりの僕に、そう尋ねてきたのだ。しかも、顔には笑みがあった。最初、僕は呆れた。無神経にもほどがある。しかも、僕が引退をしたことよって、北嶋はレギュラーの座を獲得した。他の部員より気ますぐなりそういうものじゃないか。なのに、なんでこんなさわやかに笑ってるんだ。それとも僕を嘲笑おうとしているんだろうか。

もちろん僕はそんな感情は表に出さず、

「痛かったよ。今も動かすと痛いよ」

と答えた。

北嶋は傷を見てもいいかと尋ねてきた。いいと言っていると、ズボンの裾を勝手にまくり上げ、手術痕を見て、すげえと言った。

「マジですげえ傷だな。手術、痛かったか」

「麻酔してたから、そうでもなかったな。それより、麻酔のほうに参ったよ。背中に刺すんだけどさ、あれが痛かった。あと、麻酔が切れたあと」

「靱帯断裂だろ？」

「ああ」

「それって小野伸二がやったのと同じじゃん。かっこいいな」

かっこいい。本気で北嶋はそう言っていた。その怪我でサッカーを諦めた僕に。④くらくらする頭で、僕は悟った。こいつは真正正銘のバカだ。前からバカだバカだと思っていたけど、思っていた以上にバカなんだ。嫌みとか皮肉で、これほどさわやかに笑えるわけがない。人によっては怒るんだろうけど、僕はむしろ笑いたくなった。いいな、バカって。そう思った。すげえよ、バカって。

「いや、小野は側副靱帯だけだから。俺のほうが全然重いよ」

「へえ」

マジで感心している。こっちの体の傷だとか心の傷だとかを心配する素振りにはまったくなかった。あんまりにもみんなと反応が違うので驚いたが、話しているうちに僕は自分の心がずいぶん軽くなっていることに気づいた。⑤みんなが同情やら気遣いやらを容赦なく放り投げてくるたびに、僕はそれを受け止めるための（ ）をいつの間にか作っていたのだ。そんな

以来、僕は北嶋とよく話す。

怪我をする前より、ずっとずっと仲良くなっていた。

問一 問題文の内容を大きく三つに区切ります。二つ目と三つ目の区切りのはじめの五字をぬき出しなさい。

問二 ——①と同じ内容の一文をこの後から二つぬき出し、はじめの五字を答えなさい。

問三 ——②について、「母さん」はなぜこのような様子になっているのですか。二十五字以内で答えなさい。

問四 (③) を補うのにもっともふさわしいものを選びなさい。

ア、足を引きずって歩く僕は、大いに同情された。

イ、こうやって僕は本当の友達を失っていった。

ウ、結局、みんなこうやってうそをつくんだ。

エ、何だかんだ言ったってみんな他人事なんだ。

問五 ——④での「僕」の心情はどのようなものですか。もっともふさわしいものを選びなさい。

ア、よくもそんなこと言えるな。僕は辞めたことを後悔こっかえしているんだ。

イ、ふざけんなよ。この怪我がなかったら部活を辞めなくてよかったんだ。

ウ、かっこいいわけないだろ！僕は小野伸二じゃなくて普通の高校生なんだよ。

エ、こいつは何を考えてるんだ！足だけじゃなくて頭まで痛くなってきた。

問六 ——⑤について、次の問に答えなさい。

問ア () に入るもっともふさわしいことばを選びなさい。

ア、舞台ぶたい

イ、手袋

ウ、堤防ていぼう

エ、仲間

問イ 「同情やら気遣い」をされたとき、「僕」はどのような様子になっていますか。十字以内でぬき出しなさい。

③ 次の文章を読み、後の問に答えなさい。()、や。なども一字とします)

日本語教育とは、日本語を教えることによって、日本人の言語行動を理解させることだと言われる。言語行動は、それだけが帰属する固有の文化によって異なる。

それでは、我々の言語行動とは何なのだろう。可愛い子供を見て思わず頭を撫でる。日本の社会の中ではごく当たり前の行為が、相手がタイ人の場合には失礼な行為に当たる。こういった無意識の行動が、日本人社会の中で性別、年齢、地域などにかかわらず行われるとき、それを「日本人の言語行動」といってもよいのではないだろうか。

日本人の言語行動について考える時、必ずと言ってよいほど思い出す出来事がある。①数人の留学生と一緒に台湾を旅行した時の、忘れられない記憶の一幕だ。

台北から汽車に乗り、花蓮の駅に降り立った時のことだ。留学生と一緒に英語で話している私のそばで「ねえ、日本人でしょ。わかりますよ。乗ってくださいよ」と私たちにつきまとって離れないタクシーの運転手がいた。最後には根負けして、そのタクシーで梨山まで行くことにしたが、上手な日本語で話す運転手さんの話は、非常に興味深いものだった。

初め留学生と英語で話している私を見て、「顔は日本人のようだが、日系人に違いない」と思ったそうだ。

(②)、しばらく私の様子を見ていて、英語で話してはいても「絶対、日本人に違いない」と思ったそうだ。「それは、私の英語が日本人が話すような英語だったからですか」と聞くと、「私は英語が全然わかりません」と言い、③身振り、ジェスチャーが日本人固有のものだったので日本人と見当をつけたのだと言う。

その運転手さんは、日本が台湾を統治していたころ小学生だったという。梅干しの入ったお弁当を食べ、日本人の先生が授業を担当した。

そのころ覚えた日本語は終生身につき、今、日本語が話せる運転手として日本人のお客さんを探しては乗せるのだと言う。私は留学生と一緒に行動していたので、タクシーに乗るつもりは全くなかった。留学生たちと英語で話しながら、運転手を振り切って歩きつづける私たちを、その運転手は執拗に追いかけてきて「ねー、日本人でしょう。わかっているんですよ。案内させてくださいよ」と言ったのだ。値段も安かったし、留学生たちも興味を示したので、(④) 花蓮から梨山まで、途中のガイドを兼ねて乗ることにした。彼は我々の宿まで捜してくれた。台湾統治時代が懐かしいと彼は何回も言っていた。私の持つ雰囲気は彼の思う「日本人らしさ」に合致したのだとも。

その時、私は「日本人の持っている日本人らしさとは、一体何なのだろう」と興味に駆られたのを覚えている。たとえば、具体的にどういったジェスチャーを指すのかと聞いても、残念なことにタクシーの運転手には説明できない。それはどうも直観的なものらしかった。

この「直観的なもの」を留学生に教えるのは容易ではない。それは彼らが日本の社会の中で自然につかむもので、下手に「日本人はこういうった場面で、こういう身振りや行動をしがちな」と教えるのは、日本人の言語行動をステレオタイプ化するることになり、危険このうえない。

日本語は日本人を通じて、その言語行動にまで影響を与えている。話す時の相手との距離、うなずき方、手の振り方、おじぎの仕方、笑い方、目線、日本語を母語とする人たちに共通な言語行動も「(⑤)」に入れるとするなら、とても教室内の日本語の授業ではカバーできない分野だと思う。

⑥外国語を学ぶこと、それは、それぞれの文化を背景に、各自のアイデンティティを失うことなく、そのズレを認識し、調整する能力を身につけることだ。

⑦日本語を教えること、それは、日本語という一つの言語を通じて、別な世界をのぞく機会を留学生たちに与えること、そして、留学生たちが、文化摩擦のはざまの中でキシキシ音をたてている時に、彼らの言語行動のクッションの役目を果たしてあげることだ。

問七 本文で説明されている「言語行動」とはどのようなものですか。もつともふさわしいものを選びなさい。

ア、「万歳三唱」のように、特定の文化の中だけでは理解されない身体表現。

イ、「アツカンベ」のように、だれでもすぐに習得できる身体表現。

ウ、「地団駄を踏む」のように、特定の表現が存在する身体表現。

エ、「ピースサイン」のように、世界各国で通じる身体表現。

問八 次の文は日本人の言語行動を具体的に表したものです。(①)には状況を、(②)にはジェスチャーを例に

ならって答えなさい。

状 況

ジェスチャー

例 () (困って助けを求めようとする) 兄が、(手を合わせて頭を下げていた)。

() ① () お父さんは、満足そうにお腹をポンポンたたいていた。

子供のいたずらに怒ったお母さんは、() ② ()。

